愛の園後援会だより
編集発行
愛の園後援会
和歌山県西牟婁郡上富田町生馬
TEL 0739-47-1234 〒649-2103
振替　00920-24155

安全・安心な暮らし 災害から学ぶ

会長　上羽　寛

崩落した斜面（現場の様子）

募金の贈呈式

我々の住んでいる町は、和歌山県の南西部に位置しており、台風の経路となることが多く、また、近い将来起こるかもしれないとされる南海・東南海地震の発生する海洋プレートも近くです。気象的にも地質的にも、自然災害が発生しやすい危険な条件下にあります。昨年起きた東日本大震災、そして当地方を襲った台風十二号は、多くの人の生命を奪い、大災害をもたらしました。

愛の園の発祥地である岩田の旧愛の園施設と神愛修女会聖マリア院が面している東側斜面が、台風十二号の大雨により崩落いたしました。これにより、神愛修女会、深和ホーム、旧愛の園施設は大きな被害を受けました。その後、ライフラインは早期に復旧しました。旧愛の園施設の排水処理施設を解体し、東側斜面も一時的に復旧しましたが、六月の台風四号による大雨で再び崩落し、危険な状態にあります。町当局も今年度、災害復旧予算をつけていただき、現在、調査設計中です。秋までには工事が着手されると思います。我々もこれ以上、被害が進まないよう関連機関と連携をとりながら、対策を執っていかねばならないと思います。

いつまでも、安全・安心な暮らしができる施設の確保が求められます。大規模災害時には、行政が対応できる範囲は限られていて「自分たちの生命・財産は自分たちで守る」という考え方が必要になります。そのためにも、自主防災組織の再検討をし、防災対策を考えなければならないと思います。

このほどの地震・津波・原発事故そして台風から、我々は多くのことを体験し、生命の大切さ、物の大切さ、人の絆の強さ等、再認識しました。安全・安心な暮らしをするためにも、常日頃から、継続的に自主防災活動、施設等の整備をし、安心して暮らせる基盤づくりを進める必要があります。

会員の皆様方には、愛の園の発展及び施設の整備等のためにも、更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

感謝をこめて

理事長　宮崎　修女

愛の園後援会の皆様お変わりなくいらっしゃいますか。愛の園を精神的にも、物質的にもお支え頂いていることが、働く職員には勇気を、入居者の皆さんには喜びを、それが明るい希望に繋がっています。その時、その時に応じて最も必要とするご援助を頂いているからこそ、愛の園は円滑に運営出来て行く。事あるごとにそれを実感し、一層感謝を深めております。

私は最近素晴らしい詩に出会いました。手紙と言う詩なのです。

「手紙」　～親愛なる子ども達へ～

年老いた私が　ある日　今までの自分と違っていたとしても　どうかそのままの私を理解して欲しい

私が服の上に食べ物をこぼしても　靴ひもを結び忘れても　あなたに色んなことを教えたように見守って欲しい

あなたと話す時　同じ話を何度も何度も繰り返してもいいから　その結末をどうかさえぎらずにうなずいて欲しい

あなたにせがまれて繰り返し読んだ絵本のあたたかな結末はいつも同じでも私の心を平和にしてくれた　悲しい事ではないんだ　消え去ってゆくように見える私の心へと励ましのまなざしを向けて欲しい

楽しいひと時に　私が思わず下着を濡らしてしまったり　お風呂に入るのを嫌がるときには思い出して欲しい　あなたを追い回し　何度も着替えさせたり　様々な理由をつけていやがるあなたとお風呂に入った　懐かしい日々の事を

悲しい事ではないんだ　旅立ちの前の準備をしている私に祝福の祈りを捧げて欲しい

いずれ歯も弱り　飲み込む事さえ出来なくなるかも知れない　足も衰えて立ち上がる事すら出来なくなったら　あなたがか細い足で立ち上がろうと私に助けを求めたようによろめく私に　どうかあなたの手を握らせて欲しい　私の姿を見て悲しんだり　自分が無力だと思わないでほしい

あなたを抱きしめる力がないのを知るのはつらい事だけど　私を理解して支えてくれる心だけを持っていて欲しい

きっと　それだけでそれだけで　私には勇気がわいてくるのです

あなたの人生の始まりに　わたしがしっかり付き添ったように　私の人生の終わりに少しだけ付き添って欲しい

あなたが生まれてくれたことで私が受けた多くの喜びと　あなたに対する変わらぬ愛を持って笑顔で答えたい

私の子どもたちへ

愛する子どもたちへ

この詩は私に色々な事を語りかけるのです。ご縁あって「愛の園大家族」に迎えられた方達は、明治、大正、昭和、平成と大変な時代を生き抜いて来られた方達です。

今、その方達が介護、看護を必要とし、私たちに求めておられます。

愛の園家族の一員として安心して過ごして頂く為に、その方の思い、願い、その方の不自由さに寄り添って、職員が一つになって福祉の使命を果たして行きたい、「やっぱり愛の園」と慕われる施設であって欲しいと心から願っております。

地域社会が総ぐるみで

園長　武藤　直一

社会福祉法人神愛会と特別養護老人ホーム愛の園は、一九七二年（昭和四七年）の創立から数えて今年で四十周年を迎えます。そして神愛会・愛の園の開設から十年目となる一九八一年（昭和五六年）に、愛の園後援会が設立されています。今年で三十一年となる後援会の皆さんからは、物心両面で本当にたくさんのお支えをいただいています。心より感謝申し上げます。

設立の翌年六月に創刊された愛の園後援会だより第一号に寄稿された当時の深田伊都子園長は、「入園者中心」であることは開設来の愛の園のモットーであり、この園のモットーのもとに十年間まい進してきたと報告し、続いて「地域社会が総ぐるみ」であたらなければこのモットーも完遂できないことを痛感しています。

「利用者本位のケア」と「地域で支えるケア」とは、まさに、今、高齢者や障がい者、弱い立場にある人々を支えるための最も大切なキーワードとなっています。そして、地域で支えるとは、地域にある医療や介護の施設・事業所だけを指すのではなく、弱い立場にある方々の傍らに寄り添って心を配っている人々、自分に許される時間や労力、資財を用いてこれらの方々に奉仕しようとする多くの人々の尊い働きを意味しております。この働きこそが後援会の皆さんの働きに他なりません。愛の園は皆さんに支えられることで、利用者本位のケアを目指すことができています。お寄せいただく期待とご芳志に改めて感謝申し上げます。

さて、神愛会では、愛の園の開設記念日である九月三十日に、入居者の皆さんと共に創立記念の集いを行っており、今年も感謝のお祈り、理事長の挨拶、永年勤続職員の表彰などが行われます。また、四十周年の節目の年となる今年は、十一月十七日（土）に、地域の皆さんと共に過ごす記念行事として、立教大学教授の服部万里子さんの講演と声楽家の吉野浩美さんのコンサートを、上富田文化会館で行います。後援会の皆さんには改めてご案内申し上げますが、どうぞお覚えください。ようお願いいたします。青野さんには十八日（日）にも入居者・利用者の皆さんのための愛の園でのコンサートをお願いしています。

これからも後援会の皆さんと共に、地域の高齢者の生活を支えてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

願いをこめて

後援会役員　平岩チホコ

「愛の園」その名称の通り、理事長はじめ、園長、職員の方々の献身的な暖かい愛に満ちた園……その後援会に役員として加えさせて頂く事になりました。

全く微力な私ですが、先輩役員の方々、皆様、どうぞよろしくお願い致します。

昨今、地球の異変なのか、大きな災害が重なり、又はかどらない復興等、不安な暗いニュースの世の中ですが、そんな中、

『ほんの小さな心づかいからでも、一人一人がやすらぎを得られ、それが大きく広がって、少しでも明るい希望につながれば……』

そんな願いをこめて、入居者の方々のお幸せをお祈りしつつ、お役に立つ事が出来ればと、願って居ります。

どうぞ、よろしくお願い致します。

いつも穏やかで

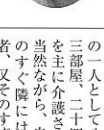
ショートステイ利用者ご家族　山川育代

同居している主人の母が愛の園にお世話になり三ヶ月程経ちました。別の事業所のデイとショートステイとがスムーズに通所できる迄には、ケアマネージャーやスタッフの方々に随分お世話になりました。母が姑を介護していた頃に比べ、制度が整いありがたいと切実に思います。

老人会などで、近所の方々のお世話をさせていただいた頃のように、生き生きとして帰宅する母を出迎える度に、ほっとしています。『二度子供』という言葉を教えてくれた母に私がその思いを持つようになるとは、夢にも思いませんでした。認知症でもまだ狭間にいる母の気持ちを混乱させないかと不安でしたが、「デイの延長」と最近納得したようです。愛の園での様子もいろいろ話しをしてくれます。違和感なしに機嫌よくしている姿をみて『穏やかに　健康でいてほしい』という、私達の願いを大事にしていただいていると、改めてお世話をして下さっているスタッフの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

毎日面白く

デイサービス利用者　岡本カメノ



朝来の彦野から来ています。十九年の四月からお世話になっており、利用した日に、アゲさんの入ったうどんを食べた事を覚えています。若い頃は、父親を早く亡くしたので、女だてらに色々と苦労をしました。塩を炊いて滋賀県の山奥まで、当時で言う闇米と交換し、その帰り御堂筋で公安に捕まった事も有ります。けれど皆、情の厚い時代で米と一緒に帰してくれた事を覚えています。若い頃の苦労は買ってでもしろと言いますが、今はこうしてデイサービスに来て、毎日面白く暮らせて結構なものです。

園での楽しみ

入居者　三栖豊子

私が愛の園に入居して半年が経ちました。とても快適な環境で職員の方々も親切にしてくれています。

足は不自由で車椅子を使用していますが、手は自由が利きますので入居後から始めた貼り絵が今では趣味となり、毎日のように楽しく過ごしています。

また、今年の春の遠足でアドベンチャーワールドへ他の入居者の方々と参加し、娘も付き添ってくれて一生の思い出になりました。

愛の園に入居することができて心の底から嬉しく思います。

これからもどうぞ宜しくお願いします。

これまでを振り返り

生活相談員　池田貴之

旧愛の園で介護職員として働き始めましたが、介護の知識も経験もなく、認知症の方々で徘徊される方や同じ質問を繰り返し聞いてこられる方等、どのように接していけばいいのかわからず、最初の頃は驚きと戸惑いの連続でした。

グループの担当職員の一人として八人部屋が三部屋、二十四名の方々を主に介護させて頂き、当然ながら、自室ベッドのすぐ隣には他の入居者、又そのすぐ隣には入居者の方がおられ、今振り返ってみればプライバシーへの配慮も足りなかったように思います。

平成十九年に現在の愛の園が新築され、各ユニット十名の入居者にそれぞれ個室がありますが、ケアプランの作成等々の業務をしてからは、入居者の方々のプライバシーも確保されました。

二階の七ユニットリーダーとして二年間勤務し、ユニットリーダー研修に参加する機会を得て、実際にユニットケアをしている施設を見学してきました。ユニット職員と話し合い、実践していくことで徐々にではありますが、その方々に応じたケアができてきたと思います。

現在は生活相談員兼一二階の介護支援専門員として勤務しております。生活支援室では長期入居申し込みをして頂いている方への面接、更新手続きやご家族の方々への連絡、ケアプランの作成等々の業務をしており、各部署とのこまかな連携を大事にするよう心掛けています。

これまでを振り返り大きく分ければ三つの分岐点があったように思います。

旧愛の園で介護職員としてのスタート、新しい施設でユニットリーダーとしてのスタート、生活相談員兼介護支援専門員としてまた新たなスタートをした時です。

その時々わからないことが多々あり、不安もありましたが、それでも日々まで仕事を続けてくることができたのは、いろいろな方々にアドバイスを頂き、支えて頂いたおかげです。これからも感謝の気持ちを忘れず頑張っていきたいと思います。

遠足（アドベンチャーワールド）

運動会の様子

愛の園後援会　収支計算書　(2011/4/1 - 2012/3/31)

借方 科目	金額	貸方 科目	金額
前期より繰越	2,408,567	後援費	1,045,746
会費	1,533,000	印刷費	43,050
雑収入	354	通信費	54,065
（収入計）	1,533,354	払込手数料	22,700
		雑費	420
		（支出計）	1,165,981
		次年度へ繰越	2,775,940
計	3,941,921	計	3,941,921

（当期剰余金）367,373

会員状況

地区	2010年度会員数	2011年度会員数	前年比
田辺市	267	270	3
上富田町	200	199	−1
白浜町	23	23	0
県内他市町村	27	28	1
県外	36	37	1
合計	553	557	4

会員納入状況

地区	2010年度度納入人数	2011年度度納入人数	前年比
田辺市	74	92	18
上富田町	73	78	5
白浜町	8	7	−1
県内他市町村	9	8	−1
県外	28	19	−9
合計	192	204	12

役員

会長　上羽寛
副会長　宮本照男
会計監査役　松本一郎
幹事　中井美智子
田辺市　廣瀬宗一
上富田町　谷中順次郎
白浜町　玉置貴彦
後援　満
事務局　平岩チホコ
堀美都子

編集後記

今年は、いつまでも肌寒い為になかなか夏服に衣替え出来なかったり、初夏に台風が上陸したりと全国的に雨の多い不安定な気候が続きましたが、会員の皆様にはお元気でお過ごしの事とお慶び申し上げます。

さて、昨年の後援会事業は、秋にお知らせしました通り旧愛の園裏側の県道に面した斜面が崩落した事に対しての義援金とさせて頂きました。その他の事業として昨年同様に九月の敬老行事に「家族の会」との協賛で催し物を行い、入居者の皆様に喜んで頂いたり、クリスマスに十一の各ユニットに「フラワーアレンジメント」のプレゼントをさせて頂きましたので皆様にご報告させて頂きます。

今年度も愛の園の入居者の皆様に喜んで頂ける様、会員の増員に努力して参りたいと思います。会員の皆様からもご入会のお声かけ並びに会費の納入を宜しくお願い申し上げます。

詳しくは『愛の園後援会事務局』までご連絡下さい。

愛の園後援会事務局
☎0739-47-1234